

會社は常に低級な逆宣傳として今日も争議回が前れる惨敗するもの、如く一言ひふりすか、吾々は反對に益々隆盛活発に西能業を繼續する確信を持つてゐる。故に五五望すに此正座落なる争議を母貫徹する迄は断じて戦ひを納めるものではない。

今や會社の不正なる且暴戻極まる嘘報日今回の事實は如く白日の前に其醜狀を曝露してある。

黒石事件 新居浜門前に於ける事件、組合奉命警察隊手事件、公傷者治療打切事件 並 不備誠首事件 等々

會社側の生みし悪辣なる手段と弄策との過激な暴狀もやがて社會の正しきは審判の前に裁かれる時が来るであらう事と吾等は確信する。

しめである。

附記

暴虐なる會社は此報告書印刷中にも早被控者等は全滅して下したと云ふ虚偽の宣傳をなして其論議の鐵匠に如何であらうも最早動かし事々出まるといふ事案は日斯く如くである。

一九二六年一月十九日

別子鉛山争議團  
日本鉱業組合別子鉛山支部

拜啓

時下愈御清穠奉慶賀候 今田当

所勞働紛議ニ関シテハ不一方御配慮

目ノ紛議ニ関シテハ己ニ西田ノ聲明書ヲ

呈シテ尊覽ヲ瀆シ申候處更ニ本日

先般解雇組合負荷及今猶首勤ルツア

ル殘留組正部別綴ハ通御手許迄忠

告状写下一正部別綴ハ通御手許迄忠

上候間御一覽相賜度現下ノ当所ノ態

度等御諒察ノ被奉候資料ノ一端御